

カセサート大学実習報告書

22261029 吉野 真奈

1. 序論

今回、タイでの獣医学実習に参加したいと思った理由は、私は、これまで海外に行く機会がほとんどなく、新しいことに挑戦してみたいと思ったからである。目的は大きく分けて3つある。1つ目は、英語を使う環境で実習をすることで、自分の英語力の向上のため、2つ目は、日本とは異なる環境で行われている獣医療を実際に見るため、3つ目は、現地の学生やスタッフと一緒に実習を行い、日本とは違う考え方や学び方を経験したかったからである。そしてこの実習で学んだことを、自分の将来につながるように帰国後も活動していきたいと思う。

2. 本論

(1) 水産 8月11日～12日)

水質検査では、pH、水温、溶存酸素、アンモニア、亜硝酸、硝酸、CO₂、塩分濃度などを実際に測定した。普段の大学での実習ではあまり扱わない項目もあり、水質が動物の健康に大きく関係していることを改めて感じた。

エビ養殖場では、エビの成長に合わせた給餌量やカルシウム濃度の管理について学んだ。ティラピア養殖場では、魚を大きさごとに分ける作業や、毎日の水質チェックを見学した。また、ワニ養殖場では、鶏をワニやナマズの餌として利用し、ナマズの排泄物などから生じたものを水牛の飼料に利用するという、資源を無駄にしない飼育方法について学んだ。動物を飼育するだけでなく、農場全体で資源を循環させている点が印象に残った。



(2) 検査 (8月14日～15日)

検査方法は、豚インフルエンザに対する ELISA 検査と、白点病ウイルス (WSSV) に対する q-PCR 検査について学んだ。ELISA では血液中の抗体を調べることで、過去に感染やワクチンなどによる免疫反応があったかを確認できることを学んだ。q-PCR では Ct 値についても学び、値が低いほど多くのウイルス DNA が存在することを理解した。

(3) エキゾチックアニマル医療 (8月17日～18日)

エキゾチックアニマルの診療では、便秘になった亀に対して、マッサージマシンを使用して治療していたことが特に印象に残った。また、抗生物質を多く使用していることにも驚いた。日本で見る動物病院とは違う治療方法を見ることができ、興味深かった。

次の日には、ゾウと猛禽類の診療を見学した。実際に近くで見るゾウはとても大きく、皮膚も想像していた以上に硬かった。処置を行っている間も大きく暴れることがなく、そのことにも驚いた。猛禽類は爪が非常に鋭く、保定するときにはまず、足をしっかり固定することが重要だと学んだ。動物の種類によって危険な部分や保定方法が大きく違うため、それぞれの動物の特徴を理解する必要があると感じた。



(4) 馬 (8月19日～20日)

馬の診療では、カセサート大学の6年生が積極的に話しかけてくれたため、英語で会話する機会も多く、獣医学だけでなくコミュニケーションの面でも勉強になった。自分から英語で話すことには少し緊張したが、学生たちが親切に話してくれて何度も助けられた。

午後には手術も見学した。ハプロネマ症によって尿路にできた腫瘍を摘出する手術で、実際の手術の様子を見ることができた。日本ではあまり見る機会のない症例だったため、非常に興味深かった。また、日本とは違い、競走馬だけではなく、ペットとして飼われている馬や農業に使われる馬など、さまざまな目的で飼育されている馬が来院していた。この日は白帯病の馬も来院しており、飼育環境の衛生状態が病気の発生に関係している可能性があることを知った。国や地域によって対象となる馬や環境が違うことが印象に残った。

(5) カセサート大学バンケンキャンパス病院見学 (8月21日)

カセサート大学バンケンキャンパスの附属病院では、10階建てで非常に大きく、日本でこれまで見た動物病院とは規模が大きく違っていた。特にリハビリテーションの施設が充実しており、動物の治療だけでなく、治療後の回復まで考えた設備が整っていることが印象に残った。

3. 結論

今回の実習では、水産動物からエキゾチックアニマル、ゾウ、猛禽類、馬まで、普段の大学生活ではなかなか見ることのできない動物や診療について幅広く学ぶことができた。特に、タイのような熱帯地域では、日本とは異なる病気や寄生虫が存在することを知り、気候や環境によって必要となる獣医療も変わることを実感した。また、水産養殖の現場で獣医師が果たしている役割について知ることができたことも大きな学びだった。

そして、今回の実習で一番印象に残ったのは、タイの人たちの優しさだった。実習でお世話になった教授やスタッフの方々、カセサート大学の学生たちは、慣れない環境で戸惑っている私にいつも親切に接してくれた。研究室や農場、病院だけでなく、日常生活の中でも多

くの人に助けてもらった。

この2週間を通して、獣医学に関する知識や技術だけでなく、海外で学ぶことの楽しさや、人とのコミュニケーションの大切さも学ぶことができた。今回の経験を今後の大学での勉強や、将来の仕事にも生かしていきたいと思う。